

【事業実績】

中核館である山形大学附属博物館と構成団体である山形市の山形市郷土館および公益財団法人山形市文化事業団の最上義光歴史館の資料の一部を紹介するデジタルアーカイブを構築した。今後「まちの記憶を残し隊」が収集した山形市中心市街地の風景や人々の語りなども掲載予定

(1) デジタルアーカイブ構築（「山形アーカイブ」）

① まちの記憶を残し隊資料収集



小幡圭祐（山形大学人文社会科学部准教授）の担当する授業の履修生や人文社会科学部の学生有志を中心に「まちの記憶を残し隊」を結成し、まちの景観やそこに生きる人たちの証言を収集した。

② 山形アーカイブ（共創アーカイブ）構築

まず手始めに、山形大学附属博物館所蔵資料約 700 点、山形市郷土館所蔵資料約 200 点、最上義光歴史館所蔵資料 20 点をデジタル化して公開した（2023 年 3 月 31 日現在）。まちの記憶を残し隊が収集した画像などは次年度以降公開予定。山形大学附属博物館と包括的連携協定を締結した合同会社 AMANE（<https://amane-project.jp/>）と、古地図ビューアライブラリ「Maplat」を開発した「Code for History」（<https://code4history.dev/>）の協力のもと、過去の地図と現在の地図を比較できる地図アプリも構築し、「山形アーカイブ」に登載した。



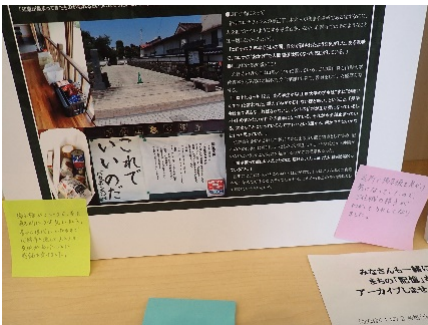
■ URL : <https://cherry.yum-archives.net/yamagata-archive/>

■ 地図アプリ : <https://cherry.yum-archives.net/maplat/>

(2) ななはく！(まちの記憶を残し隊報告会)

山形まちづくり会社と協力して町の記憶を残し隊が収集した「記憶」を展示・報告するイベント「ななはく！」を実施した。

① ななはく！まちの記憶市 2022年9月17日～19日 参加者240人



70代以上女性「山形市のメイン通りが、デパート閉店後、かなり寂しくなりました。このような企画で、昔からの山形中心市街の様子を展示したり、上映、後援したり、とても素晴らしい企画だと思います。街の歴史を知ったり、考えたりすることを続けていってくださったらありがたいです。」

② ななはく！まちの記憶を聞く会 2022年10月23日(日)、30日(日)参加者17人



20代男性「私たちの年代では住んでいる街がどんなところであったか知らなくても生きていくことができますが、今回のようにお話を聞かせていただくことで、七日町、山形の見方、考え方が変わり、とても興味深かったです。」

③ 山形市主催「山形舞子と花小路秋まつり」2022年11月12日(土)13日(日)展示協力



④ ななはく！まちの記憶市 2023 ソーレ 2023年2月10日(金)、11日(土)、12日(日) 参加者322人



20代男性「町の記憶を保存するといっても、商業施設に注目したり、絵葉書に着目したり、また、3Dモデルを作ったりと様々なアプローチがされており興味深かったです。」
50代女性「山形まちの記憶をアーカイブにする取組みとてもいいと思います。時代とともに古いものはなくなりますが、山形はそれを上手に残したり、融合させたりすることに長けていると思います。山形を離れた人にもいつまでもやまがたを忘れずに古いものに触れる機会をこれからも作っていったら素晴らしいですね。展示とてもよかったです。」